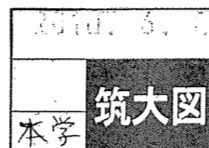


障害科学研究

2010年3月25日発行

第34巻



原 著

- 1 岡 典子・中村満紀男・吉井 涼：
公立学校における特殊学級の開設と教育目的・本質論革新の可能性
—19世紀末～1910年代アメリカ都市公立学校—
- 17 下司 優里：20世紀初頭カナダ・オンタリオ州におけるヘレン・マクマーチーの精神薄弱者政
策主導—公立学校精神薄弱学級構想を中心に—
- 33 富田 朝未・相羽 大輔・河内 清彦：
全盲学生に対する対人魅力に及ぼす障害開示条件の効果
- 45 中村満紀男：アメリカ合衆国草創期における寄宿制障害児教育施設の慈善性と教育目的・本質
との関連
- 61 永田 真吾・東原 文子：
比喩理解・産出を促進するCAI教材の開発および比喩的思考が困難な軽度知的
障害児への適用—Graphic Organizerを活用して—

資 料

- 75 中山 忠史・丹野 傑史：
具体的な長期目標設定に向けた組織的取り組み
—A特別支援学校の「卒業後の姿の検討会」に着目して—
- 87 丹治 敬之・野呂 文行：
自閉性障害児における平仮名・片仮名文字間の等価関係の成立
—構成反応見本合わせ課題を用いた片仮名文字指導—
- 99 野口 晃葉・米田 宏樹：
米国におけるParaeducatorの役割の変遷
- 113 山田 康広・米田 宏樹：
精神薄弱教科「生活科」新設に伴う各教科の内容の変化
—昭和38年と昭和46年養護学校（精神薄弱教育）小学部・中学部学習指導要領及
び資料の比較—
- 129 板倉 達哉・柄田 毅・長崎 勤：
他者との共同行為による幼児のタスク習熟度の発達
- 139 熊谷枝里子・野内 友規・前川 久男：
読みに困難を示す生徒の読みの速さ・正確性とRAN（Rapid Automatized
Naming）コンポーネント
- 155 吉井 涼：20世紀転換期アメリカ合衆国におけるM. P. E. グロスマンの非定型児に対する教
育の試みとその実体
- 169 藤田 英樹・前川 久男・宮本 信也・柿澤 敏文：
注意欠陥／多動性障害児の刺激定位の被転導性における動機づけの影響に関する
予備的研究—自己調節困難と外的補償の2重の影響について—
- 179 一木 薫・安藤 隆男：
特別支援学校（肢体不自由）における自立活動を主として指導する教育課程に関
する基礎的研究—教師の描く指導の展望に着目して—
- 189 高橋 実：発達障害児の地域生活支援の課題について
—地方の中核都市A市の保護者の意識調査から—
- 205 大部 令絵・鄭 仁豪・野呂 文行：
インドネシアにおける自閉症児教育の実態と課題に関する研究
—西ジャワ州都市部教員のインタビュー調査を通して—

短 報

- 221 佐々木順二：明治末期から昭和戦前期の耳鼻咽喉科医師による聾啞教育への関与
—九州帝国大学医学部耳鼻咽喉科学教室を中心に—



障害科学学会

Original Articles

- 1 Noriko OKA, Makio NAKAMURA, and Ryo YOSHII
The establishment of city public special classes and its potentialities of innovation of education in them in the 20th turning century America
- 17 Yuri GESHI
A historical study on the pioneering by Helen MacMurchy on a policy measure to the feeble-minded problem in the province of Ontario in the early 20th century Canada: Focusing on her conception of Training Classes in public schools
- 33 Asami TOMITA, Daisuke AIBA, and Kiyohiko KAWAUCHI
The effects of disability disclosure by the blind students on interpersonal attraction
- 45 Makio NAKAMURA
The educational purpose of schools for the deaf, blind, and idiot and its relation to the stigma of charity attached to them in the early nineteenth century America
- 61 Shingo NAGATA and Fumiko HIGASHIBARA
Research on CAI material and supporting way for a child with mild intellectual disability who showed difficulty in the metaphorical thinking: Utilization of graphic organizers

Brief Notes

- 75 Tadashi NAKAYAMA and Takahito TANNO
An Approach to Lead the Current Children's Target from the Expectation of Future Condition - School Management for Setting a Long Term Target Concretely
- 87 Takayuki TANJI and Fumiyuki NORO
Demonstrating the Emergence of Stimulus Equivalence Relations Between Hiragana-Word and Katakana-Word in Children With Autistic Disorder: Teaching Katakana Words by Using Constructed-Response Matching to Sample
- 99 Akina NOGUCHI and Hiroki YONEDA
Change in Roles of Paraeducators in the United States
- 113 Yasuhiro YAMADA and Hiroki YONEDA
Transition of Contents of Subjects due to Introduction of "Seikatsu-ka" (Life and Practical Skills) for Mental Retardation: Comparing Curriculum for Mental Retardation in 1971 with in 1963
- 129 Tatsuya ITAKURA, Takeshi TSUKADA, and Tsutomu NAGASAKI
Development of Task Achievements in Infants in Cooperative Activities with Peers
- 139 Eriko KUMAGAI, Tomonori YANAI, and Hisao MAEKAWA
Speed, Accuracy of reading and RAN (Rapid Automatized Naming) component in children with reading disabilities
- 155 Ryo YOSHII
Historical Study on Education for Atypical Children Experimented by M. P. E. Groszmann in the Turn of the 20th Century in the United States
- 169 Hideki FUJITA, Hisao MAEKAWA, Shinya MIYAMOTO, and Toshibumi KAKIZAWA
Preliminary study of the effect of attentional motivation upon distractibility of stimulus orienting in children with attention-deficit / hyperactivity disorder: Double effect of difficulty in self-regulation and compensation from external stimulation
- 179 Kaoru ICHIKI and Takao ANDOU
A study of the curriculum based on JIRITSUKATSUDOU at special support school for students with physical disabled - The result of survey on problem of the making practical plans for instruction -
- 189 Minoru TAKAHASHI
About the problem of the regional life support of the developmental disorder child : From the consciousness survey of the parents in a local core city A city
- 205 Norie OBU, Inho CHUNG, and Fumiyuki NORO
Current Educational Situation and Problems for Children with Autism in Indonesia

Short report

- 221 Jyunji SASAKI
Otorhinolaryngologists' participation in the development of education for the deaf in Japan, 1896-1940: focusing on Kyushu Imperial University

投 稿 規 定

1. 本誌は、障害科学学会の機関誌であり、年1巻発行する。なお巻号は前身の雑誌である「心身障害学研究」を引き継ぐものとする。
2. 本誌の執筆者は障害科学学会会員に限る。
3. 本誌の編集は、障害科学学会編集委員会の責任のもとに行われる。
4. 本誌には未公刊の和文または英文で書かれた障害科学に関する「原著論文」、「短報」、「資料」、「実践報告」、「展望」のほか、編集委員会が認めた論文等を掲載する。このうち、「原著論文」は、理論的、実験的または事例的な研究論文で、オリジナルなものとする。「短報」はそのようなオリジナルな研究の途中経過や一次的な報告を指す。これに対し、「資料」は、調査、統計に関するもの、歴史的に価値ある文献資料の紹介、方法論的試論、新しい実験装置の紹介、内外諸研究の追試検討したものとする。また、「実践報告」は実践報告会、事例検討会等でモデルとなりうる報告、「展望」は障害科学に関係のある課題について、内外の諸研究の成果を総合的に概観・展望したものとする。
5. 論文は、査読委員によって審査され、編集委員会において、その掲載の可否が決定される。
6. 規定枚数を超過したもの、および図表、写真等の製版・印刷等、特に費用を要するものは、別途執筆者の負担とする。
7. 別刷りは執筆者の負担とする。
8. 本誌に掲載された論文等の著作権は障害科学学会に帰属し、無断で複製あるいは転載することを禁ずる。
9. 投稿論文の内容について、十分に人権および倫理上の配慮がなされていなければならない。

執 筆 規 定

1. 原稿の仕様 原則としてワープロを用い、A4判用紙に25字×32行（800字）で印字された原稿を提出すること。A4判用紙の原稿2.5枚は刷り上がり1頁に相当する。和文では、本文、文献、図表、要約をすべて含めた論文の刷り上がり頁数は、原著論文、資料、実践報告、展望は10頁を上限とする。英文では、本誌8頁（approximately 550 words per page; including Abstract, References, Tables, and Figures）を上限とする。また、短報は和文で5頁、英文で4頁とする。これを超過する論文については、編集委員会に掲載の可否を決定する。
2. 提出原稿 原著論文・資料ともに、オリジナル1部とコピー2部を添えて提出すること。また提出原稿はA4判とし、表紙には和文表題、英文表題、執筆者名、代表者の連絡先（電話番号を含む）を明記すること。なお、論文採択後には電子ファイルを提出する。
3. 図表など 白紙に黒色インクで明瞭に書かれたものを用い、写真を用いる場合は鮮明なものを提出すること。表や図の番号はTable 1, Fig. 1のように記入し、表題、説明ともに一括して別紙に記載すること。また、本文中にその挿入箇所を明示すること。
4. 和文要約 和文論文および英文論文には、問題、方法、結果、結論の概要をほぼ把握できるように、和文で400字以内の要約と3～5項目の和文キーワードを本文とは別葉にて提出すること。
5. 英文要約 和文論文および英文論文には、英文表題、200～300ワードの英文要約、3～5項目の英文Key Wordsを本文とは別葉にて提出すること。
6. 表記 新かなづかい、常用漢字、算用数字を用いること。外国人名・地名等の固有名詞以外はなるべく訳語を用い、必要な場合は初出の際にだけ原語を付す。文献は論文の最後にアルファベット順に一括して示すこと。雑誌文献記述の形式は、著者名、発行年、題目、雑誌名、巻数、論文所在頁の順とし、単行本文献記述の形式は、著者名、発行年、書名、出版社、出版地の順とする。
7. 註 必要がある場合は、本文中に1)、2) …のように上付きの通し番号で註を付し、すべての註を本文と文献欄の間に番号順に記載すること。
8. 印刷形式 印刷の体裁は編集委員会に一任する。
9. その他 執筆に関する詳細は、日本特殊教育学会の『「特殊教育学研究」和文論文執筆の手引き』と、最新の特殊教育学研究英文特集号の表紙裏Information for Contributorsに従うこと。